

「大学院で学ぼう②」

－現在大学院で学んでいる現職教員院生さんに聞く－

今回は、兵庫教育大学の教職大学院（生徒指導実践開発コース）の現職派遣で学んでいる福田勝頭さんに、大学院で学んで感じたこと、考えたことなどについてお聞きします。福田さんは、愛知県から2年間派遣され、現在2年生です。中学校の先生です。

（古川）大学院で学ぶことで、どのようなメリットを感じていますか？

（福田）学校現場では、めまぐるしく状況が変化し、さまざまな状況に対応しなければならないため、毎日の業務をこなしていくことで精一杯でした。大学院で学ぶことで、現場を離れて、普段疑問に思っていたことを本質的に考えることができる時間が得られたことが大きいと思います。また、書籍や論文に触れることができ、専門的な理論を学ぶことができます。これは、学校での研究会や研修だけでは得にくいものだと思います。

（古川）なるほど。物事をじっくり考える時間があるということは、その後の職業生活（教員生活）に役立つものとなりそうですね。他に大学院の意義としてはどのようなものがありますか。

（福田）大学院では、言葉一つをとっても、どんな意味で、どんな理由があって使っているのかを考えたり、使われる理論の歴史的な背景まで振り返って考えたりなど、これまで自分が行ってきた実践を振り返って、理論と結びつけられるところに面白みがあります。教職大学院の授業は、単に理論を学ぶだけでなく、常に自分の実践と結びつけて考えられるので、大変充実感があります。

（古川）大学院では、どのような授業を学んでいますか？

（福田）「共通基礎科目」、「専門科目」そして「実習科目」があります。共通基礎科目では、他のコースの現職派遣の先生方と一緒に受講し、学校教育に関する幅広い知識を得ることができました。それらの授業は、知識教授型だけでなく、受講生それぞれの実践や現状などを発表する活動がいくつかありました。他校種、他地域の現状についての情報を得るとともに、自身の所属している学校や地域の特色などについてあらためて考えるきっかけになりました。

また、「専門科目」では、生徒指導、教育相談、道德教育、学級経営、キャリア

ア教育，特別活動・地域連携などについて，専門的に学び，それらの領域の学び直しになりました。

「実習科目」は，現職教員大学院生は 2 年生になって，これから学ぶことになっており，貴重な体験になると期待しています。

（古川）教職大学院での授業の特徴や，上記以外の学びについてはいかがですか？

（福田）私は，授業内外で研究に関する知識を求め，積極的に行動するように心がけてきました。国内の関連する研究会や学会へも参加しました。これらの学会や学校訪問などでは，自校に居ては得にくい，特色ある実践について学びを深めることができました。また，他大学の先生との勉強会に行ったり，学部の授業にゲストティーチャーとして参加したり，これまでにない新鮮な経験を積むことができました。

（古川）最後に，大学院で学んでよかったことなどについて教えてください。

（福田）兵庫教育大学の大学院で学んで，他県の先生方やストレートの院生の方と接することができる貴重な機会を得ることができました。また，大学の先生方をはじめ，教育に携わるさまざまな方と出会ったことで，自分の中でこれからの仕事への新たなモチベーションをもてるようになりました。働くという役割を少し離れて，学ぶという経験をすることは大変意味のあることだと思います。

（兵庫教育大学 古川雅文・福田勝頭）